平成 20 年 3 月 13 日発行

楽しい学級・学校づくりのために　第 19 号

温かい雰囲気のある学校づくりのために

文部科学省「平成 18 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では，県内 1000 人あたりの不登校児童生徒数（国公私立）が 14．9 人という高い数値を示し，非常に憂慮すべき結果となりました。

高知県心の教育センターにおいても，不登校の予防的視点を重視し，子どもたちや保護者の心のケアや温かい雰囲気のある学校づくりのためのサポートに取り組んでいます。

地域指定事業「温かい雰囲気のある学校づくり支援プロジェクト」では，集中的な研修プログラムの実施や校内支援会へのサポートを行っています。そして，今年度は，県外講師を招聘して，Q-Uや構成的グループエンカウンター等を活用した学級経営についての講演会を開催しました。

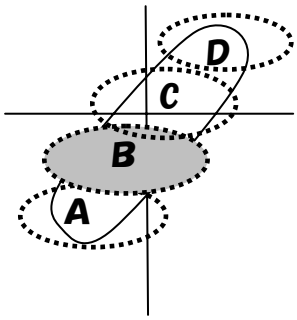
先日，２月８日に開催された講演会に先立ち，高知県心の教育センターで行われた研修会（講師：奈良教育大学 粕谷貴志 准教授）の内容を一部，ご紹介します。

●Q-Uを活用した学級経営のあり方　～ 奈良教育大学 粕谷貴志 准教授 ～

Q-Uで成果を出している学校の特徴

① 共通理解の核にしている。② 児童生徒理解のたたき台になっている。③ 連携の材料にしている。

※「みんなで支援をしないと難しい」という事例が増えているからこそ，Q-Uの活用を！



予備軍に対しての丁寧なアセスメントを！

・左図のような斜め型のプロット図の時，予備軍（B）の子どもたちをどのようにフォローしていくかが，今後の学級経営のキーポイントになる。従って，予備軍（B）の児童生徒の状況を丁寧にアセスメントすることが大事である。

・予備軍（B）の子どもたちの状況が不安定になってくると，Cのゾーンにいる子どもたちも不安定になってきて，不登校傾向を示すリスクが高くなってくる。

アセスメントとは，「学級のストーリー」を読み解くこと！

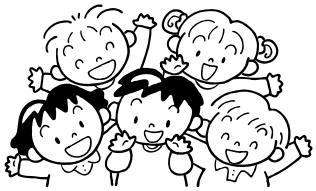
・「支援にあたっての最優先事項はどこか」を決める。
・学級担任の苦しさまで分かる共感性が大切。
・「根っこ」（学級や個々の生徒の背景）を読み解く。そして，そこに対するアイデアを考える。
・学級が苦しくなってきた過程を知ることが大切。
・アセスメントでは，周囲から色々なストーリー（仮説）を考えてもらう。その中から，学級担任が「これだ！」「これをやってみよう！」というストーリーを見つけること。

「可視化」と「能視化」（「ゆりかごに学ぶ教育の方法」　淑徳大学 吉田章宏 教授）

・「可視化」とは，尺度を使って数値化するなどして，対象自体を「見えるようにする」こと。「能視化」とは，見る側自身が変化して「見えるようになる」こと。
・プロットは児童生徒の姿を可視化したもの（一側面に過ぎない）…真実の姿を理解するためには，色々な子ども像を知っておくことが大切。（アセスメントの充実へとつながる）
・「観察，面接」をベースとして，調査等（可視化されたデータ）と合わせ，教員自身が「能視化」することで，より深い児童生徒理解につながる。

より深い児童生徒理解

観察 面接 ＋ 調査（可視化） ⇒ （能視化） ⇒



連絡先：高知県心の教育センター（TEL：088-833-2932）